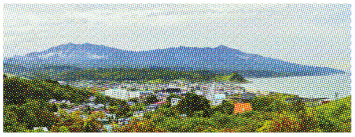
地域の持続可能な発展へ

北海道 様似町でジオパーク全国大会

パネルディスカッションでは、ジオパークの可能性について意見交換（10月7日、様似町中央公民館で）


様似町のシンボル・アポイ岳。アポイの名は、アイヌ語の「アペ（火）・オイ（多い）神）・ヌプリ（山）」が略されたものという

第9回日本ジオパーク全国大会が10月6日から8日まで、アポイ岳ジオパークのある北海道の様似町で開かれた（主催＝実行委員会など）。

ジオパークとは、地球を学び、丸ごと楽しむことができる「大地の公園」のこと。「地球・大地（ジオ）」と「公園（パーク）」を組み合わせた言葉である。

ジオパークの活動は、ヨーロッパと中国を中心に、2004年の世界ジオパークネットワーク（GGN）の設立から本格的に始まった。15年、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の正式プログラム。「ユネスコ世界ジオパーク」は現在、38カ国140地域にある。日本ジオパーク委員会が認定した「日本ジオパーク」は44地域あり、全国大会のうち9地域が世界ジオパークである。

本年は、日本にジオパークが誕生して10年。大会はこれまでの10年を総括し、「これからの10年」を展望する集いとなった。

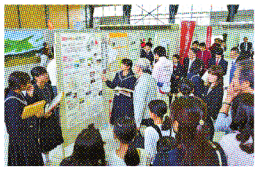
6日は、GGNのニコラス・ゾウロス会長＝ギリシャ・エーゲ大学教授＝が講演。ジオパークは「地域のアイデンティティーを立ち上げ、優れた地形・地質や景観、植生、文化財などを活用した持続可能な地域発展に資する新しいツール」であり、私たちの目指すゴールは国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」と共通であると述べた。

次いで、GGNの活動を紹介し、特徴的な活動として、「効果的なネットワーク」を挙げた。その際、ジオパーク関係者がネットワークを広げ、交流を重ねた分だけ、ジオパーク活動を成功に導く知恵と経験を共有できる、高品質の活動を保つことができると強調した。

さらに、ジオサイト（ジオパークを特色づける見学場所）の魅力を全身で感じるジオツーリズムや、防災教育も含めた環境教育、若い世代を中心とする新規雇用の創出など、地域の持続可能な発展におけるジオパークの役割を紹介した。

このほか、「ジオパークが担う普及の滅災・防災活動って何？」「学びが生み出す地域の未来づくり」など、8分野の分科会がプレジオツアーと連動したことで、実りある議論が生まれた。

また、各地のジオパークを紹介するポスターセッションには、口頭発表タイムを設置。様似町のジオパーク「44地域あり、そのうち9地域が世界ジオパーク」を持ち帰り、ジオパークの魅力を発信していきます」

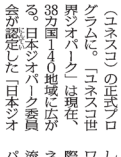

ポスターセッションでは、様似町の中学・高校生がアポイ岳ジオパークの魅力などを発表した（10月6日、様似町中央公民館で）

中学生は、マントル由来のかんらん岩からなるアポイ岳の固有の高山植物を説明し終えると、「古里の誇りが持てました」と笑顔で語った。

7日は、北海道150年記念講演会や、明日のジオパークを考えるパネルディスカッションなどを開催。8日は、アポイ岳ジオパークとその周辺地域を巡るジオツアーが実施された。

愛媛県から参加した、四国西予ジオパークのジオガイドが語っていた。「新しい発見の連続でした。わが地域に〝核心〟を持ち帰り、ジオパークの魅力を発信していきます」

アポイ岳から様似町の市街地を望む。アポイ岳は低標高ながら特殊な土壌・気象・地理的環境によって、多くの固有の高山植物が生育する。アポイ岳ジオパークはユネスコ世界ジオパークである（写真提供＝様似町）


ゾウロス会長

女子美術大学と粉体工学会

連携シンポジウム行う

女子美術大学と粉体工学会の連携シンポジウム「芸術と粉体工学」（9月28日、同大相模原キャンパスで）

女子美術大学と一般社団法人・粉体工学会の連携シンポジウム「芸術と粉体工学」が9月28日、神奈川県相模原市の同大相模原キャンパスで行われ、研究者や教員、学生ら約180人が参加した（協賛＝同大染織文化資源研究所）。

絵画の表面を顕微鏡で見れば顔料の集まりであり、顔料は粒の集まりである。例えば、日本画の顔料である天然岩絵の具は、化学反応で人工的に発色させたものではなく、岩石や鉱物などを粉砕した自然物固有の「本当の色」。この「本当の色」は顔料のみならず、釉薬や染料にもなり、陶器やガラス、染織品などの工芸品に活用できる。

シンポジウムでは、岩絵の具研究の第一人者で女子美術大学の橋本弘安副学長が、美術・工芸・デザインの表現のために使用する造形素材と粉体技術は密接につながりがあると強調。今回のシンポジウムが芸術と粉体工学技術を結び、地球が作り出す「本当の色」の価値と可能性を広げる契機になることを期待した。

粉体工学会の内藤牧男会長（大阪大学教授）は、粉体には固体微粒子の集合体であり、薬、化粧品、コピーをはじめ、私たちの生活に欠かせないものであると述べた。さらに、粉体の持つ特有の性質や、粉体工学がものづくりを支える不可欠な学問であることを分かりやすく解説した。

このほか、利用目的に応じた「粒の大きさ」に整える粉砕技術の紹介をはじめ、粉体の特性を最大限に生かし、色・かたち・デザインの創造につなげていく事例研究の報告などがあった。

参加した教員は言う。

「造形素材の魅力が科学的な観点からよく理解できました。芸術の世界が異なる世界とつながり、拡がる道が開けたと感じています。今後、芸術の世界から新しい風景を見る機会が生まれてくるのではないでしょうか」

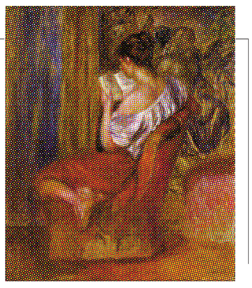
語りかける絵画 美への招待 ㉑

美術史家 大野 芳材

伝統への挑戦 都市生活の記録

ルノワール「読書する女」

1900年頃／油彩、カンヴァス／56×46㌢／東京富士美術館蔵



眼にまっすぐに飛び込んできて、強い感銘を生み出す絵がある。画家の知的なくらみより、純粋に映像を楽しむような作品である。ルノワールは、そうした絵画を描き続けて80年近い生涯を生きた。

鮮やかで豊かな色彩、鮮麗な色彩の心地よいハーモニー、生気あふれる人物像、愛らしく無邪気な子どもたち、ルノワールの個性を刻印するこれらの要素が、生きる喜びに満ちた彼の作品を形づくる。そこでは日々の悩みや気がかりを忘れ、快活で幸福な世界に遊ぶ解放感を感じる。絵画の伝統に挑戦した印象派の中で、ルノワールがいち早く人気画家となったのは、こうした作品の特質に、人々が強く引かれたからだろう。

東京富士美術館にある3点の彼の油彩画はその魅力にあふれている。「読書する女」を取り上げるのは、テーマへの関心による。

ところで印象派が前衛とされたのは、表現上、古代文学や聖書の主題を重んじ、アカデミーの伝統への挑戦だった。彼らは黒を用いた明暗表現を避けて、明るい色彩で自分たちが生きている世界、つまり現代生活を描いたからである。

カフェでのひと時、家族や友人たちとの団欒など、彼らが繰り返し描いた題材は、当時の都市生活者の暮らしぶりの描写である。ルノワールはその極め付きの記録者であり、読書もしばしば取り上げた題材であった。

聖書を読む聖母像に原型がある読書する女の図像は、市民社会が形成され始めた18世紀フランスで、風俗画として新たに展開した。出版が盛んになり、読書が豊かな市民層に広がり始めたことが背景にあるだろう。18世紀には新聞雑誌の出版が産業として確立し、パルサックやユゴー、ゾラやゴンクール兄弟など、フランス文学の古典となる作品を残した。読書は都市生活者の身近な娯楽となっていき、ルノワールの数々の読書図は、こうした時代に制作された。

この作品の舞台は、裸婦の図柄の豪華なタピスリーで飾られた室内である。女は背を向けてゆったりと座り、画家はその肖像を描こうとしたのではあるまい。肩から背中の美しさの描写に関心があったにしても、彼は当時の社会における読書を象徴するイメージを創造しようとしたといえよう。

輝かしい色彩が生み出す世界は、女の姿が家具調度と溶け合い、一枚のタピスリーのような幻想を呈する。遠近法や量感の描写からの完全な離脱である。ルノワールはモネとともに、現代美術の扉を開いた画家でもあった。

天気
6時→9→12→15→18→21→24　降水　気温　湿度　風向・風速
16日(火)　17日(水)　18日(木)　19日(金)　20日(土)　21日(日)　22日(月)
東京　50 23 17　60 19 15　60 17 14　30 18 14　30 20 12　30 20 12　20 20 12
所沢　60 21 15　60 20 15　60 18 15　40 18 13　60 19 13　40 19 12　20 20 12
横浜　50 22 16　60 19 15　60 17 14　30 19 13　30 19 13　30 19 13　20 20 14
さいたま　50 22 16　60 19 15　60 17 14　30 19 11　30 19 11　30 19 11　20 20 13
千葉　50 22 17　60 19 15　60 18 14　30 18 13　30 19 12　30 19 11　20 20 13
水戸　20 21 14　60 19 13　60 18 11　30 18 12　30 19 11　30 19 11　20 20 11
宇都宮　20 22 14　40 19 13　60 17 12　30 18 11　30 19 11　30 19 11　20 20 11
前橋　40 22 13　60 20 14　60 18 12　30 19 12　30 19 11　30 19 11　20 20 10
甲府　30 23 15　40 22 14　60 19 13　30 19 12　30 20 11　30 21 11　20 20 10
新潟　20 22 15　90 18 13　60 17 12　30 18 12　30 19 12　30 19 12　20 20 12
長野　30 20 10　60 15 11　60 17 10　30 17 8　30 20 8　30 20 8　20 20 7
10/16 火曜日

ご葬儀の費用　事前のご相談を承ります
プラン15　プラン25　プラン45　プラン65　プラン85　プラン105　プラン125　他
家族・友人葬のパイオニア　報恩社　03-3554-5555
降水確率20%　0.5　一荷半荷
きょうの月

全国の主な都市
天気予報提供協力 日本気象協会
6時→12→18→24　降水　気温　洗濯　紫外線　17日(水)　18日(木)　19日(金)
札幌　40 16 10　40 18 8　50 19 9　40 18 8
仙台　10 21 13　60 17 12　60 17 10　20 18 8
名古屋　20 24 15　30 26 15　30 26 15　30 23 14
金沢　20 22 15　60 19 13　30 20 11　30 19 12
大阪　40 23 16　40 22 14　30 22 14　30 22 14
広島　20 23 15　60 19 12　30 21 14　30 22 14
高松　20 22 15　60 19 12　30 21 13　30 21 15
福岡　20 23 15　60 20 13　30 21 13　30 22 15
那覇　50 26 24　60 26 20　60 26 20　60 26 21

15日15時　低1012　低1012　高1020　高
120　130　140　150
○快晴 ①晴 ◎曇 ●雨 ◉霧 ◒雷 風向・力

2018年10月16日　聖教新聞

記事中の参加した教員は、福井県から参加された美術の先生の言葉です。

シンポジウムのあと頂いたメールの一部

こちらこそ，たいへんお世話になり有り難うございました。天然鉱物を使った顔料をいろいろに展開しようとされていることに感嘆し，また見学では，設備の充実と共に，貴学学生の熱心さや逞しさに感服いたしました。

私にとってもたいへん貴重な場でしたので，また今後，お役に立てることがあればぜひとも馳せ参じたく存じます。今後とも，どうかよろしくお願い申し上げます。 **京都大学　宮原稔教授**

シンポジウム、好評だったようで何よりです。今後も何かありましたら、できる限りご協力させていただきたいと思います。よろしくお願いします。**東京工業大学　神谷利夫教授　　＜松下准教授を講演者に推薦いただいた先生＞**

★大阪大学内藤牧男先生・粉体工学会から、１１月２８日から３０日開催の国際粉体工業展東京２０１８東京ビックサイトの粉体工学会学会ブース内の机でこの関連で「天然岩絵具作成キット」女子美アイシス製品の紹介を行います。